

社会資本総合整備計画  
都市再生整備計画 事後評価シート

栗島地区

平成27年3月

新潟県栗島浦村

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県		市町村名	粟島浦村		地区名	粟島地区			面積	918ha			
交付期間	平成23年度～平成25年度		事後評価実施時期	平成26年度		交付対象事業費	187百万円		国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	事業名													
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	・(仮称)ホースパーク整備事業											
		提案事業	・野生馬復活学術調査事業、まちづくり活動支援事業											
	当初計画から削除した事業	事業名			削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		基幹事業	-											
		提案事業	牧平放牧場整備事業			馬舎の建設により、高を収容する場所が設けられ、また、近隣の住民からの支援により、(仮称)ホースパーク付近に放牧する場所が設けられたため、削除となった。				影響なし				
新たに追加した事業		基幹事業	-											
	提案事業	-												
交付期間の変更	当初変更	平成23年度～平成25年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし								
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
	指標1	観光客入れ込み数	人/年	23,000	H22	23,500	H25	モニタリング	評価値	23,937	○	あり	・野生馬を活用したイベント等により、来訪者が増加した。	-
												なし		
	指標2	「おと姫の湯」入浴数	人/年	20,500	H22	21,000	H25	モニタリング	評価値	17,229	×	あり	・日帰りツアーが増え、滞在時間の関係で利用者が減った。イベント等により宿泊を伴う企画を考えたい。	-
												なし		
	指標3	地区人口	人	345	H22	340	H25	モニタリング	評価値	342	○	あり	・新たな拠点づくりにより、魅力的な居住環境が創出された。	-
												なし		
	3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
		その他の数値指標1	ホースパーク利用者数	人	473	H22		モニタリング	評価値	1,363		あり	・イベント情報の周知強化が図られ、利用者が増加した。	-
	4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牧場暮らしキャンプは、リピーターが多く参加者からなかなか体験できないことややりがいがある楽しいといった好評の声をいただいている。</li> <li>・ホースパーク利用者から、1年間の活動を通して体力的にも精神的にも成長したことといった声が聞かれた。</li> <li>・エコツーリズム参加者からは、まちなかのホーストレッキングは、珍しく楽しいといった好評の声をいただいている。</li> </ul>												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	なし			なし				なし					
	住民参加プロセス	なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた									
		なし			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した									
なし			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
持続的なまちづくり体制の構築	なし			なし				なし						

## 様式2-2 地区の概要

### 粟島地区(新潟県粟島浦村) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	数値	年度	数値	年度	数値	年度
<b>【大目標】</b> 粟島の原風景をとりもどす野生馬復活による島の再生 <b>目標1:</b> 野生馬を活用した通年型観光による産業振興及び交流の拡大 <b>目標2:</b> 野生馬復活による島の活性化	観光客入れ込み数	人/年	23,000	H22	23,500	H25	23,937	H25
	「おと姫の湯」入浴数	人/年	20,500	H22	21,000	H25	17,229	H25
	地区人口	人	345	H22	340	H25	342	H25
	ホースパーク利用者数	人	473	H22	-	-	1,363	H25



通年観光による交流拡大を目指すホースパークの整備



交流人口の拡大のためのまちづくり活動支援として、キャンプや乗馬体験の実施

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年々減少傾向にある観光客の巻き返しと、夏季集中型の観光メニューからの脱却が課題であったが、通年観光としてのホースパーク整備により年間観光を可能とし、観光客入り込み数の増加につながった。</li> <li>・過疎化が進む本村において、コミュニティ活動の低下が課題であったが、ホースパーク整備に伴いキャンプ等で島外の小中学生と地元小中学生等の交流など、来街者と地域住民の交流の機会が増加した。</li> <li>・少子高齢化が進行することで、耕作地の放棄及び里山の荒廃による自然環境の劣化が課題であったが、ホースパークを拠点として、島内のホーストレッキングを通じて、島内の自然の魅力PRを行うことができた。しかしながら、自然環境の保全に関する抜本的な取組には至っていない。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光施設などの公共施設の来館者数の維持に向けて、通年型観光による産業振興及び交流拡大に向け各施設においてイベント事業などのソフト事業を推進する。</li> <li>・自然環境の保全に向け、ホースパークを中心に他の観光施設やイベント等を通じて、島内の自然の魅力伝えるとともに、自然環境の保全へのさらなる理解促進を進める。</li> </ul>

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費 (百万円)	事業内容	事業費 (百万円)	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園	(仮称)ホースパーク		6058㎡ 3:(馬場、園路、広場、 トイレ等)		6058㎡ 3:(園路、広場、遊具、 トイレ等)	なし	影響なし	●	
古都及び緑地 保全事業									
河川									
下水道									
駐車場有効利 用システム									
地域生活基盤 施設									
高質空間形成 施設									
高次都市施設									
既存建造物活 用事業									
都市再生交通 拠点整備事業									
土地区画整理 事業									
市街地再開発 事業									
住宅街区整備 事業									
バリアフリー環 境整備促進事 業									
優良建築物等 整備事業									
住宅市街地総 合整備事業									
街なみ環境整 備事業									
住宅地区改良 事業等									
公営住宅等整 備									
都市再生住宅 等整備									
防災街区整備 事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと



添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	数値	事後評価	あり	なし			
指標1	観光客入れ込み数	人/年	栗島地区の年間観光客数について、平成19年から22年度の数値の平均を従前値とした。評価値は、平成25年度の観光客数を把握した。評価時点は平成26年3月31日であるため、確定値とした。	-	-	23,000	H22	23,500	H25	モニタリング	-	モニタリング	○		
										事後評価	確定 ●	23,937	事後評価		
指標2	「おと姫の湯」入浴数	人/年	入浴施設「おと姫の湯」入浴数について、平成19年から22年度の年間入浴数の平均を従前値とした。評価値は平成25年度の入浴数を把握した。評価時点は平成26年3月31日であるため、確定値とした。	-	-	20,500	H22	21,000	H25	モニタリング	-	モニタリング	○		●
										事後評価	確定 ●	17,229	事後評価		
指標3	地区人口	人	住民基本台帳により、栗島地区の平成20年4月1日の人口を従前値とした。評価値は、平成26年4月1日の人口を把握した。評価時点は平成26年3月31日であるため、確定値とした。	-	-	345	H22	340	H25	モニタリング	-	モニタリング	○		
										事後評価	確定 ●	342	事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	ホースパークの整備やイベント等の実施により、観光客数は目標値を上回ったため、目標達成度は○とした。	
指標2	ホースパーク整備等観光客の増加が入浴数に結びつかず、目標値を下回ったため、目標達成度は×とし、1年以内の達成込みもなしとした。	宿泊をしないで帰る方が多くなり、入浴者数が減少傾向となった。
指標3	地区人口の下げ止まりを目標としたが、目標とする下げ止まりより緩やかな下げ止まりとなり、目標値を上回ったため、目標達成度は○とした。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・牧場暮らしキャンプは、リピーターが多く参加者からなかなか体験できないことややりがいがある楽しいといった好評の声をいただいている。
- ・ホースパーク利用者から、1年間の活動を通して体力的にも精神的にも成長したことといった声が聞かれた。
- ・エコツーリズム参加者からは、まちなかのホーストレッキングは、珍しく楽しいといった好評の声をいただいている。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内横断的な組織	事業関係課職員(総務課、産業振興課)	平成27年2月13日	産業振興課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標3		その他指標1	
指標名		観光客入れ込み数		地区人口		ホースパーク利用者数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	(仮称)ホースパーク整備事業	◎ ◎	ホースパークの整備とその施設を活用したイベントの実施、その他エコツーリズムなどのイベント等の実施により観光客入り込み客数の増加につながった。	○	公営住宅建設事業やコミュニティバスの社会実験とともに、ホースパークを活用した活動やイベントなどにより、人口の自然減もあるなかで、本地区の人口減少を緩やかにすることにつながった。	◎	本地区の地域資源でもある野生馬を活用したホースパークの整備とそれに伴う活動、キャンプや馬力学会、牧場発表会など各種イベントにより、利用者数の年々の増加につながった。
	提案事業	野生馬復活学術調査事業		○		-	
まちづくり活動支援事業		◎		○		◎	
関連事業	コミュニティバス社会実験事業	○		○		○	
	新高速船建造事業	◎		○		○	
	公営住宅建設事業	-		◎		-	

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標3	その他指標1
	ホースパークを中心に、他の観光施設やイベント等と連携し、島内全体の観光の魅力の向上をめざす。	若年層を中心に島の魅力を情報発信することで、人口の流入をめざす。	ホースパークの更なる活用を図るとともに、島内の各種観光とも連携しさらなる利用者数増加をめざす。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2											
指標名		「おと姫の湯」入浴数											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	(仮称)ホースパーク整備事業	△	ホースパークや観光客増加に関するイベントや交通網の充実を行ったが、宿泊する方が減少する等の要因により入浴者数は減少していった。しかしながら、観光客の増加といった側面では一定の効果が確認できる。										
	野生馬復活学術調査事業	-											
	まちづくり活動支援事業	△											
関連事業	コミュニティバス社会実験事業	△											
	新高速船建造事業	△											
	公営住宅建設事業	△											

※目標未達成への影響度  
 ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。  
 ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。  
 △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。  
 -: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類  
 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。  
 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>今後は、ホースパークを中心に、他の観光施設やイベント等と連携し、島内全体の観光の魅力の向上をめざすことにより、目標値の達成が期待される。</p>			
------------------	---	--	--	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内横断的な組織	事業関係課職員(総務課、産業振興課)	平成27年2月13日	産業振興課

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
1. 期間限定された観光産業の形態 観光産業は住民の従事者が最も多く、 本村の基幹産業の一つであり、豊かな自然 資源を活かしつつ施設整備やイベント を実施しているが、年々減少傾向にある 観光客の巻き返しを図ることと、夏季集中 型の観光メニューからの脱却が課題である。	・通年観光としてのホースパークを整備することで、年間観光を可能とし、観光客入り込み数の増加につながった。	-	
2. コミュニティ活動の低下 過疎化が進む本村において、基幹産業 である漁業、観光産業の低迷により人口 減少が進み、少子高齢化が進行すること でコミュニティ活動の低下が課題である。	・ホースパーク整備に伴い、キャンプ等で島外の小中学生と地元小中学生等の交流など、来街者と地域住民の交流の機会が増加した。 ・粟島ドリームランド協議会によるイベント等によって、コミュニティ活動が活性化された。	-	
3. 自然環境の劣化 人口減少が進み、少子高齢化が進行する ことで、耕作地の放棄及び里山の荒廃 が顕著になり、自然環境の劣化が課題である。	・ホースパークを拠点として、島内のホーストレッキングを通じて、島内の自然の魅力PRを行うことができた。	・自然環境の保全に関する事業が実施できなかった。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり  
方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を  
添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	観光施設などの公共施設の来館者数の維持	野生馬を活用した通年型観光による産業振興及び交流拡大のため、各施設においてイベント事業などのソフト事業を推進する。	各施設におけるイベント事業

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	<ul style="list-style-type: none"> <li>未達成の目標を達成するための改善策</li> <li>未解決の課題を解消するための改善策</li> <li>新たに発生した課題に対する改善策</li> </ul>	自然環境の保全	ホースパークを中心に、他の観光施設やイベント等を通じて、島内の自然の魅力を伝えるとともに、自然環境の保全へのさらなる理解促進を進める。

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	まちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

### 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・ホースパークの整備とともに、その施設を活用したイベントを多数実施し、ソフトとハードが相乗効果をあげ、観光客入り込み数の増加につながった。	・ハード整備とともに、ソフト事業を効果的に実施することで、事業効果の発現を行う。
	うまくいかなかった点	-	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	-	・まちの課題-目標-事業-指標との関連性に留意し、適切な指標の設定を行う。
	うまくいかなかった点	・指標2の入浴数については、実施事業との関連性が薄かったため、目標未達成となった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	-	
	うまくいかなかった点	-	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	-	
	うまくいかなかった点	-	
その他	うまくいった点	-	
	うまくいかなかった点	-	

### 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画事業の活用予定  
なし

・事後評価を予定している地区  
なし

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	村のホームページに掲載	平成27年2月20日～3月10日	平成27年2月20日～3月10日	担当課への窓口受付、 電話、FAX、メール	産業振興課
広報掲載・回覧・個別配布	広報に村のホームページ及び 担当課窓口で原案を公表して いる旨を掲載	平成27年2月20日 回覧	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	窓口閲覧	平成27年2月20日～3月10日	平成27年2月20日～3月10日		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

## (6) 事後評価委員会の審議

### 添付様式8 事後評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員		平成27年3月23日	産業振興課	粟島浦村都市再生整備計画事後評価委員会規則	新たに設置
その他の委員	・内浦地区区長、元役場職員、元(株)粟島汽船部長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	-
	成果の評価	・指標1の環境入れ込み数は、目標を達成したが観光の目標としている通年観光については、船利用や冬期の環境等もあり、難しいと思われる。
	実施過程の評価	-
	効果発現要因の整理	-
	事後評価原案の公表の妥当性	妥当であると認められた。
	その他	-
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	-
	フォローアップ	-
	その他	-
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	妥当であると認められた。
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

# 都市再生整備計画

あわしまちく  
栗島地区

にいがたけんあわしまうらむら  
新潟県栗島浦村

平成26年3月

# 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	新潟県	市町村名	アヲシマウラムラ 粟島浦村	地区名	アヲシマチク 粟島地区	面積	918 ha
-------	-----	------	------------------	-----	----------------	----	--------

計画期間	平成 23 年度 ~ 平成 25 年度	交付期間	平成 23 年度 ~ 平成 25 年度
------	---------------------	------	---------------------

## 目標

- 【大目標】 粟島の原風景をとりもどす野生馬復活による島の再生
- 目標1:野生馬を活用した通年型観光による産業振興及び交流の拡大
- 目標2:野生馬復活による島の活性化

## 目標設定の根拠

### まちづくりの経緯及び現況

粟島地区は、新潟市の北方約63キロ、村上市岩船港の北西約35kmの日本海に浮かぶ孤立小型離島で、一島一村を形成している。面積9.86km<sup>2</sup>、周囲22.3kmで島のほとんどが山地と丘陵で占められ、島の中央に265.3mの小柴山をはじめとする山の尾根が南北に連なっている。本村と本土を結ぶ唯一の交通手段である定期航路は、粟島港を拠点に村上市の岩船港との間に高速船とフェリーが運航している。

本村の主産業は、立地的に環海性であるため、周囲の好漁場を利用した漁業と昭和40年代前半の離島ブームの影響により伸長した観光産業である。瀬波・笹川流れ・粟島県立自然公園に属した手つかずの雄大な自然とともに粟島名物「ワッパ煮」の提供、キャンプ・海水浴場の整備、コミュニティバス・乗合タクシー社会実験を実施するなど観光客の利便性向上を図るとともに、5月の「島びらき」から10月の「竹取物語」などのイベントを開催して観光振興の強化を図っている。しかし、人口減少及び少子高齢化が進む中、村民の依存度が最も高い観光産業は経済不況から観光客が減少しており、平成4年の57,000人から平成21年には23,000人と40%も減少しており、観光を取り巻く環境は厳しい状況にある。

このような状況の中、村ではコミュニティの再生・活性化を図るため公営住宅を整備するとともに昨年度からターン4名を受け入れて地域の活性化を図るとともに移住定住促進を進めている。そして、環境教育を推進し、新たな観光資源発掘を目的にした任意の粟島浦村ドリームランド協議会を組織した。この協議会は、①島内に生息地がある国の特別天然記念物オオミズナギドリを活かした環境教育、②在来馬のルーツをたどり観光資源としての活用、③里山と里海の保全活動と循環型社会への取組の3事業を主目的に地域住民が主体となって活動に取り組んでいる。

ドリームランド協議会が取り組む在来馬復活は、かつて本村には戦前期まで在来馬が生息していた。この在来馬を観光資源として活用することに由来し、馬を島の環境を回復させる一つの象徴として考えている。この在来馬は、皇后の楠木正成公が騎乗する馬のモデルとなったと伝えられている。在来馬は主として農耕馬として用いられ、野山に馬が放牧される風景が当たり前だった。しかしながら、近代化とともにその役割を追われ、徐々に馬と共生する文化が衰退していった。

粟島は人口減少が進み、少子高齢化が進行する中で耕作地の放棄及び里山の荒廃が顕著になり、自然環境の劣化が目立つようになったが、在来馬を復活させることを通じて、かつての粟島の原風景を取り戻し、既存産業のみならず、新たな産業の創出を地域再生の基本として振興策を展開することが目標設定の根拠である。

平成22年度現在では、この計画を進め、住民の合意形成を図るために今年度事業の社会実験として在来馬3頭を2ヶ月間リースして、その利活用に取り組みだしたところである。今後、自然資源を活用したイベントやエコツーリズムに加えて、馬を活用した地域再生を図っていく。

### 課題

1. 期間限定された観光産業の形態  
観光産業は住民の従事者が最も多く、本村の基幹産業の一つであり、豊かな自然資源を活かしつつ施設整備やイベントを実施しているが、年々減少傾向にある観光客の巻き返しを図ること、夏季集中型の観光メニューからの脱却が課題である。
2. コミュニティ活動の低下  
過疎化が進む本村において、基幹産業である漁業、観光産業の低迷により人口減少が進み、少子高齢化が進行することでコミュニティ活動の低下が課題である。
3. 自然環境の劣化  
人口減少が進み、少子高齢化が進行することで、耕作地の放棄及び里山の荒廃が顕著になり、自然環境の劣化が課題である。

### 将来ビジョン(中長期)

【粟島浦村総合計画】  
「活力と潤いのある村」を将来像として掲げる第2次粟島浦村総合計画では、「安全で快適な村」、「健康で暮らしやすい村」、「希望と潤いに満ちた村」、「産業の活性化」を基本目標としている。

【まちづくりに向けた構想】  
本村は、総合計画、過疎地域自立支援促進計画、離島振興計画に基づき、「すべての村民が優れた、そして調和のとれた自然環境と生活環境のもとで、健康で明るく幸せな生活を営むことができる村づくり」を目標に積極的に地域振興を進めてきたが、孤立小型離島である地域の特性から本土との格差、若者の島離れが依然として緩和されていない。

このような状況を踏まえ、小さな自治体故に自治の機能が果たすべき役割をしっかりと認識し、生業が失われるとともに徐々に消えていった原風景を取り戻し、「ふるさと粟島」を次世代に継承するとともに、きめ細かな住民サービスを提供する施策を展開する。また、漁業就業希望者の受け入れや地場産品のブランド開発、自然環境を活かした観光ガイドの育成など、新たな分野にもスポットをあて、島外からの新たな雇用、移住定住対策を推進する。さらに、新たな人材による新たな発想から資源開発を図り、「エコツーリズム」、「地産」、「情報発信」に努め、原風景を復活させる過程で環境、教育、福祉、文化、交流、産業などを総合化したまちづくりを目指す。

## 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		従前値		目標値	
						基準年度		目標年度
観光客入れ込み数	人/年	観光客入れ込み数	野生馬を活用した新たな拠点づくりにより、来訪者を1割増加させる。(目標1に対応)	23,000	平成21年度(H19~22年度の平均)	23,500	平成25年度	
「おと姫の湯」入浴者数	人/年	「おと姫の湯」入浴者数	新たな拠点づくりによる観光産業の活性化を図ることにより、「おと姫の湯」入浴者数を1割増加させる。(目標1及び2に対応)	20,500	平成21年度(H19~22年度の平均)	21,000	平成25年度	
地区人口	人	粟島地区の住民登録者数 (住民基本台帳 各年4月1日現在)	新たな拠点づくりによる地区の再生に取り組むとともに移住定住環境を整備して1JUターンを受け入れることで、地区人口の減少を抑制する。(目標2に対応)	345	平成22年度(H22.4.1)	340	平成25年度	

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>目標1: 野生馬を活用した通年型観光による産業振興及び交流の促進</p> <p>◎内浦海水浴場に隣接する用地にピクニック広場、バリアフリー対応のトイレ、馬と触れ合うことのできる丸馬場及び体験学習施設を整備して、既存の観光資源を高度化し、野生馬と組み合わせることで多様な観光形態を創出し、地区の新たな観光拠点とすることで産業振興および交流促進を図り、地域の活性化につなげる。</p> <p>◎野生馬の復活により体験乗馬、乗馬トレッキング、観光馬車、障害者乗馬等、日帰りから滞在型や合宿まで対応できる観光産業を興し、通年型の観光資源を目指す。</p>	<p>⇒ホースパーク整備(基幹事業:公園)</p> <p>⇒コミュニティバス社会実験(関連事業)</p> <p>⇒新高速船建造事業(関連事業)</p>
<p>目標2: 野生馬復活による島の活性化</p> <p>◎野生馬復活学術調査の実施により、かつて生息していた在来馬のルーツをたどるため、文献の分析及びDNA鑑定等野生馬復活の基礎資料作成</p> <p>◎まちづくり活動支援事業を実施して、環境教育を推進し、新たな観光資源発掘に活動する粟島ドリームランド協議会のコミュニティ活動を支援する。</p> <p>◎内浦・釜谷2地区間にコミュニティバスを運行して住民及び観光客の移動利便性の向上を図る。</p> <p>◎離島である本村定期航路において、老朽化した高速船をリニューアルして、産業経済の振興に寄与する。</p> <p>◎公営住宅の建設により、IJUターンを受け入れて移住定住施策を推進する。</p>	<p>⇒野生馬復活学術調査(提案事業:事業活用調査)</p> <p>⇒まちづくり活動支援(提案事業:まちづくり活動推進事業)</p> <p>⇒コミュニティバス社会実験(関連事業)(再掲)</p> <p>⇒新高速船建造事業(関連事業)(再掲)</p> <p>⇒公営住宅建設事業(関連事業)</p>
<p>その他</p> <p>本地区は全域が「日本海きらきら羽越観光圏」の滞在促進地区に包含される。</p>	

様式3 目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

交付対象事業費	187.0	交付限度額	74.80	国費率	0.4
---------	-------	-------	-------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

基幹事業		事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
事業	細項目					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路														
道路(地方都市リノベーション事業)														
公園		(仮称)ホースパーク	粟島浦村	直接	6058㎡	平成23年度	平成25年度	平成23年度	平成25年度	184	184	184		184
公園(地方都市リノベーション事業)														
古都及び緑地保全事業														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム														
地域生活基盤施設														
高質空間形成施設														
高次都市施設														
地方都市リノベーション推進施設														
生活拠点施設														
既存建造物活用事業(地方都市リノベーション推進)														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										184	184	184	0	184

提案事業(継続地区の場合のみ記載)		事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
事業	細項目					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
地域創造支援事業														
事業活用調査	野生馬復活学術調査		ドリームランド協議会	間接	—	平成23年度	平成23年度	平成23年度	平成23年度	3.0	3.0	3.0		3.0
まちづくり活動推進事業	まちづくり活動支援		ドリームランド協議会	間接	—	平成23年度	平成23年度	平成23年度	平成23年度	0.4	0.4	0.4		0.4
合計										3.4	3.4	3.4	0.0	3.4

(参考)関連事業		事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いずれかに○)				事業期間		全体事業費
事業						直轄	補助	地方単独	民間	開始年度	終了年度	
コミュニティバス社会実験		島内	粟島浦村	国土交通省		○				21	23	35
新高速船建造			粟島汽船(株)	国土交通省	高速船 1隻	○				21	22	670
公営住宅建設事業		内浦地区・釜谷地区 各1箇所	粟島浦村	国土交通省	2棟	○				23	24	100
合計												805

合計(A+B) 187.4